

新潟県におけるヤナギイノコズチとカラタチバナの分布

藤田 進

イノコズチ属は暖帯から熱帯にかけて100種あるといわれる。ヤナギイノコズチ *Achyranthes longifolia* Makino は、本州(関東地方以西)から九州、中国(本土・台湾)の温暖地帯に分布する。関東地方でも北部になる茨城県岩間町での記録がある。新潟県では上越市柿崎区上金原の分布が初めての発見である。

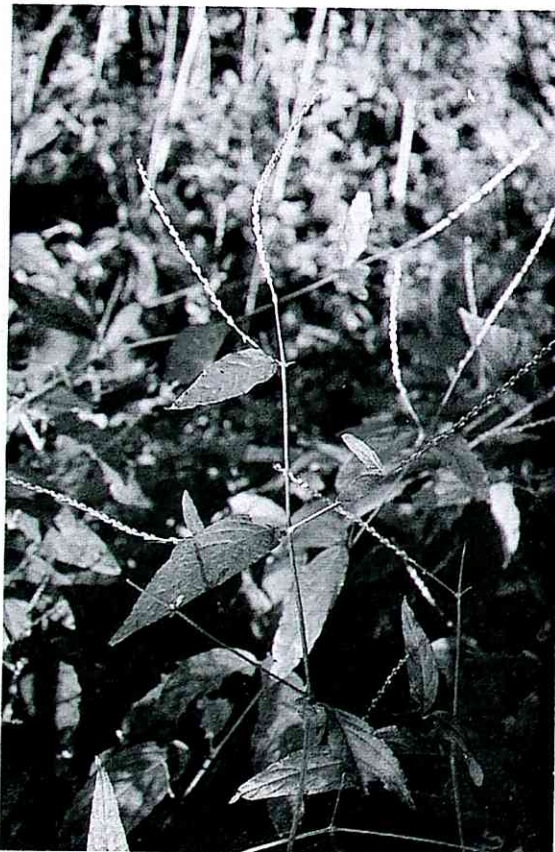
その生育地は周囲を田畑に囲まれた東西20m、南北に30mほどの長方形で海拔6mほどのハンノキ林内である。東側はマルバゴマギなどが良く繁り、西側の半分はあまり樹木の繁茂はなく西日を受けやすい環境になっている。林内はやや湿り気があり、ツルマサキ、ヤマウコギ、ヤマグワ、ツルウメモドキ、アケビ、マムシグサ、ヤブニンジン、コバギボウシ、オオウバユリ、フユノハナワラビ、ジュズスゲなどが生育している。

5月下旬の観察時には丈は50cm前後であったが、10月の時には150cm程に成長し大きな群落を形成していた。茎の先端や葉腋から対生する長い枝を出し花穂を形成していた。日陰の強いところほど枝は長く60から70cmにもなっている姿は異様である。

生育地は一般的に林内か林のふちに見られるという。詳しい資料がないので明確に言えないが、低山から里山にかけての植物と思われる。このため既存の生育地では開発等によって絶滅の危惧が心配され、レッドデータ植物になっている県がかなりある。そのなかで新潟県内での分布は北限となるわけで貴重である。

カラタチバナ *Ardisia crispa* DC. は奥山(1968)の分布図によれば、新潟県が北限になっている。新潟県内での分布については笹原(1986)の分布図があり、富山県境の糸魚川市から弥彦山麓の国上山までの主として海岸部の三カ所、および佐渡市の海岸近くに六ヶ所の分布が認められる。

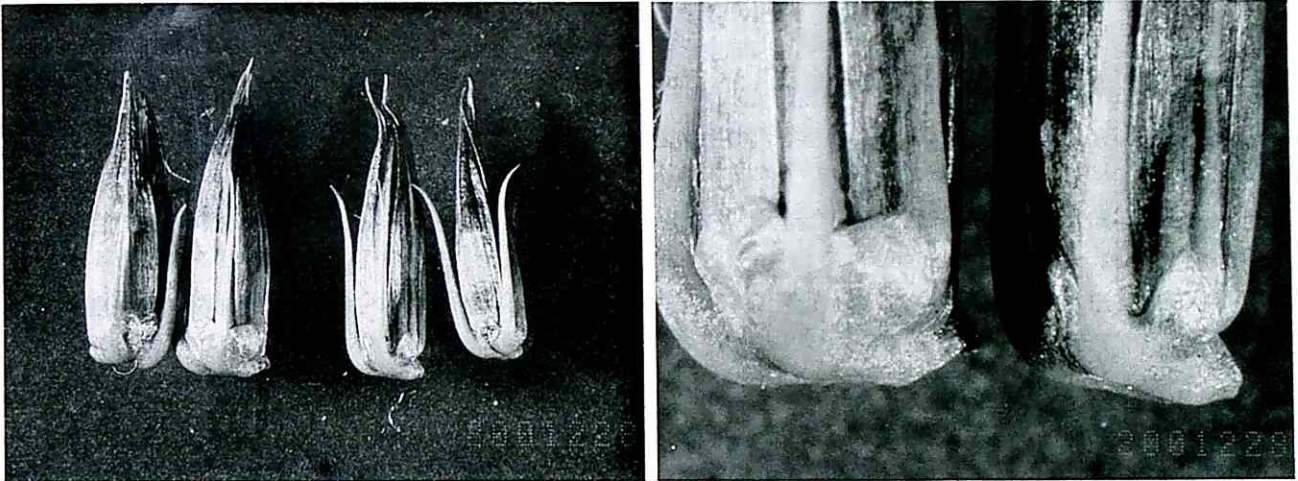
新たに柏崎市米山台二丁目の海拔40m(写真 2005. 11. 5)ほどの所に確認された。ここは住宅団地内の山地で、筆者が車庫用地として空き地を購入した時に付随した部分である。付近にはアカマツ、シロダモ、ヒサカキ、マンリョウ、ヤブコウジなどの常緑樹に混じってオクチョウジザクラ、エゴノキ、タラノキ、シモツケ等が生育している。幅6mの市道を挟んで住宅が並ぶ環境である。



ヤナギイノコズチの生育



カラタチバナの生育



イノコズチ(左)とヤナギイノコズチ(右)の果実 ヤナギイノコズチの小苞基部の付属片はやや小さく鈍三角形
イノコズチは南蒲田上護摩堂山産
(写真 左 2個:10倍 写真 右 1個:32倍で撮影)

文 献

- 佐竹義輔他監修(1984) ヤナギイノコズチ 日本の野生植物 草本Ⅱ 離弁花類 平凡社
 林 弥栄監修(1993) ヤナギイノコズチ 山溪ハンデイ図鑑1 野に咲く花 山と溪谷社
 植物レッドデータブックCOMPLETE ヤナギイノコズチ (インターネット版)
 佐竹義輔他監修(1993) カラタチバナ 日本の野生植物 木本Ⅱ 平凡社
 奥山春季(1960) カラタチバナ 原色日本野外植物図譜Ⅱ 誠文堂新光社
 笹原 治(1986) カラタチバナ 新潟県植物分布図集 第7集:283~284

積雪地域植物研究所(新津植物資料室) 刊行目録(2001~5年)

- 石沢 進編(2001~2005): 新津植物資料室年報 2001~2004
- 笹川通博(2001): 新潟県佐渡における植物分布図集 暖温帯性常緑植物 新潟県植物分布調査記録 4: 199頁。(2001年12月10日)
- 本間建一郎(2002) 佐渡島の植物(羊歯・種子植物) 新潟県植物分布調査記録 5: 104頁。(2002年1月15日)
- 本間建一郎(2003) 佐渡植物方言語源私考・渡辺洋子(2003) 佐渡島の植物 目録追加(羊歯・種子植物) 新潟県植物分布調査記録 6: 62頁。(2003年4月30日)
- 笹川通博(2003): 新潟県佐渡における植物分布図集 日本海要素の植物 新潟県植物分布調査記録 7: 237頁。(2003年6月20日)
- 笹川通博(2004): 新潟県佐渡における植物分布図集 高山・深山の植物 新潟県植物分布調査記録 8: 183頁。(2004年10月30日)
- 笹川通博(2005): 新潟県佐渡における植物分布図集 分布上特徴のある植物 新潟県植物分布調査記録 9: 277頁。(2005年8月31日)